## イスラエルに導かれる

召しは日本にあると信じていた私に神様はある時、幻をもって語ってくださいました。神様の臨在の中で、「嘆きの壁」という声が聞こえてきました。「嘆きの壁？日本に嘆きの壁なんて無いですよ。あれはエルサレムですよ！主よ、これがあなたからの声ならば、どうぞ御言葉を通してお語りください。」と申し上げました。すると、「エズラ書2章を読みなさい。」というのが頭の中に来たので開けてみました。その時、主人も一緒に祈っていたのですが、私がエズラ書を開けた時に、主人が「あぁ、主よ、ついにあなたは私の妻にこのことを言ってくださいましたね」と言いました。エズラ書2章の1節が、エルサレムに戻れという言葉でした。それで、あぁ、私は日本ではなく、イスラエルに行くんだと解りました。

## リバイバルの大きな鍵

リバイバルの大きな鍵の一つがイスラエルです。日本中を巡回していると、昭和5年のリバイバルを覚えている方がたくさんいらっしゃいます。その方々は、ユダヤ人が救われないことにはご再臨はないことを、聖書を通して理解していました。それで、ユダヤ人が救われるだけではなくて、シオンの再建の為、ご再臨の為と、この3つを祈り始めました。すると、日本にリバイバルが訪れたのです！当時、神学校の先生をしていた方がおっしゃるには、リバイバルは1か所や2か所ではなかったそうです。そして一番多い時には、一日に30件の新しい教会ができたそうです。これがリバイバルなんですよね。皆様、今すぐ牧師になる用意ができていますか？しっかり心構えしておいてください。

## 民族的な子孫から個人的な子孫へ

今日の学びは二つのアブラハムの子孫です。
神様はアブラハムとその子孫に幕屋を与えられました。民はこれを全部たたんで持ち運びながら、荒野を放浪しました。これがソロモンの時代には神殿になります。やがてソロモン神殿は破壊され、今度は第二神殿になります。この第二神殿もソロモンの神殿も荒野の幕屋と中は同じです。幕屋の中は至聖所と聖所になっていました。この至聖所の中には神の臨在による光が満ちていました。他は全部闇の世界ですが、神様はこのアブラハムの子孫に1ヶ所だけ光の世界で交流できるようにしました。その光の世界と闇の世界の境目にある垂れ幕を通って行けるのは、一年に一回、アブラハムの子孫の代表者、すなわち大祭司だけでした。これは、神様がアブラハムの子孫を民族的な子孫として扱ってらっしゃったことを表しています。まず、このことを理解してください。それを踏まえた上で、ガラテヤ3:29には、もしあなたがたがキリストのものであればそれによってアブラハムの子孫であり、約束の相続人なのだと言っています。ここにもう一つの個人的なアブラハムの子孫が現れました。

## 引き裂かれた神殿の幕

次の聖句は、マタイ27:50－51です。「そのとき、イエスはもう一度大声で叫んで、息を引き取られた。すると、見よ。神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。そして、地が揺れ動き、岩が裂けた。」
神殿の幕はイエス様が息を引き取ると同時に、上から下に裂けました。もし、これが下から裂けたなら人間が裂いたとも言えますが、神殿の天井はとても高いのです。ですから、上から下に裂けたという事は、神様が裂かれたことを意味します。ヘブル書10章に、光の世界と闇の世界を仕切っていたこの垂れ幕は、イエス様の御体の象徴であったということが書かれています。＜ヘブル10:19－20＞　この結果、私達は新しい道に入れられました。この新しい道とは、至聖所に入る道です。至聖所には大祭司しか入れませんでしたが、祭司であり王である私たちは大胆に聖所の中に入れるのです。しかも、中に入ったら、そこには幕がありません。私たちアブラハムの子孫は個人的に扱われています。